

美原記念病院ブレインバンクの維持運営費用について

田野光敏¹，田村未来¹，青柳真一¹，諏訪部桂¹，相澤勝健²，高尾昌樹^{3,5}，美原盤⁴

1. 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 検査科
2. 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 地域事業部
3. 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 神経内科
4. 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長
5. 埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中内科・神経内科

[はじめに]ブレインバンクは、剖検脳を凍結組織も含め長期的に保存し、これらの試料を疾患の原因究明や治療法開発を目的として研究者に供与するものである。当院は2009年にブレインバンクを設置、日本神経科学ブレインバンクネットワークの一施設として運営している。ブレインバンクの運営には、病理解剖、標本作製、診断、試料保存を含め一定の費用がかかるが、診療報酬などでは評価されず、その運営費は公的研究費と施設負担により賄われている。そこで、ブレインバンクの維持、運営に要する費用を調査した。

[結果]2016年度(2017年1月末時点)において、病理解剖、診断、ブレインバンクの維持、また、それを用いた研究に使用するための公的研究費は、文部科研費、日本学術振興会科研費、厚生労働省科研費、AMED研究費から総額600万円。支出内訳は剖検にかかる費用1,516,480円、神経病理標本作成費用3,866,537円、消耗品、学会発表費用など616,982円。施設負担額は4,088,132円で支出内訳は剖検・切出し関連費用301,298円、標本作製関連費用3,380,572円、消耗品費用20,3514円、超低温フリーザー電気代385,911円であった。ブレインバンクを用いた研究まで含めると総額10,088,132円必要であった。

[結語]ブレインバンクは脳神経科学の発展のために極めて重要で公益性の高い事業であり、その維持、運営には確固とした経済的基盤が必須である。しかし、十分な公費負担は得られず、例えば、当施設の強みである、フットワークの軽さを活かした依頼剖検時の搬送業務など、一部の時間外業務に関して、病院スタッフがボランティアで行っているような状況であり、今後解決されなければならない。ブレインバンクの継続的な運営をサポートできるような、研究費の充実が重要である。